

「ALM+AVA 維持療法」について

この治療法は、肺癌の代表的な治療法です。ALM はペトレキセド、AVA はアバスチンの略称です。

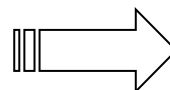
1. 投与方法

Rp	薬剤	効能または使用目的	投与時間
1	生理食塩液	輸液(血管確保と点滴ルートの洗浄)	—
2	グラニセロン+ デキサメタゾン(デカドロン)	吐き気予防	30分
3	ペトレキセド(アリムタ)	抗がん剤	10分
4	ペバシズマブ(アバスチン)	抗がん剤	30分

2. スケジュール

ALM+AVA は21日サイクルで抗がん剤を投与していきます。初日に抗がん剤を投与すると残りの20日間は「休薬期間」といい、体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進みます。

	1サイクル目		2サイクル目	
	1日目	2日目~21日目	1日目	2日目~21日目
投与日	○		○	
休薬日		○		○



3. 特徴

●アリムタ

作用: がん細胞の活動(代謝)を妨げることで、抗がん作用を示します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

副作用を軽減するために**葉酸(パンビタン)**と**ビタミン B12(マスブロン注)**を投与します。

パンビタン: アリムタ初回投与の約1週間前より毎日服用してください。治療が終了しても一定期間は服用していただく必要があるため自己判断で中止しないでください。

マスブロン: アリムタ初回投与の約1週間前に投与開始になります。その後9週間毎に投与を繰り返していきます。治療が終了しても一定期間は投与が必要です。

他の薬(例: 痛み止め)と併用するとアリムタの副作用が出やすくなる場合がありますので、他に服用している薬がある時はご相談ください。



●アバスチン

作用: がん細胞への血管新生を抑制することで、酸素や栄養を届かなくする作用と、他の抗がん剤をがん細胞へ届きやすくする作用があります。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にさせていただきたいと思います。)

吐き気・嘔吐

好発時期: 治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、
症状が7日間程度続く方もいます。



対策: 抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。
考えすぎるとそれだけで症状が出てくることがあります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分(水、スポーツドリンク、など)はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。
便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。
部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。

白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる(免疫反応)役割があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

好発時期: 抗がん剤を投与後7~14日目くらいに減少のピークを迎え、21~28日目くらいには回復します。

対策: 細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。**手洗い、うがい**を心がけましょう。

外出時は**マスク**を着用してください。

虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療をしておくことをお勧めします。

好発時期に38℃以上の発熱があった場合はご連絡ください。



貧血

赤血球の成分が少なくなると貧血を起こすことがあります。自覚症状としては息切れ、動悸、手足の冷え、倦怠感、立ちくらみ、などが現れます。

好発時期: 抗がん剤投与後7~14日後より徐々に症状が現れてきます。

対策: **激しい運動は控え、無理のない範囲でゆっくり動くようにしてください。**

鉄分が少なくなっているケースでは食事から摂取できるよう心がけてください。

高血圧症

好発時期: 投与開始後4ヶ月以内の発症が多いようです。

対策: **自宅での定期的な血圧測定をお願いします。**

めまい、ふらつき、がまんできない頭痛と吐き気、けいれん、などの症状が出た場合はご連絡ください。

安静時にくり返しの測定をしても最大血圧が180mmHg または最小血圧が120mmHg を超える場合もご連絡ください。

出血傾向

好発時期: 投与初期に多い傾向がありますが、治療期間を通して可能性があります。

対策: **粘膜からの出血が多いようです(鼻血、歯茎など)が、通常は軽く、自然にまたは圧迫することで止まります。**

(10~15分位しても止まらない場合はご連絡ください)

傷口が治りにくくなることがありますので怪我などには注意してください。

口から血を吐いたり、下血などが見られた場合は早めにご連絡ください。



疲労感

好発時期: 注射後(特に白血球の減少している時期)に体の疲れやだるさを感じることがあります。

対策: こまめに休息を取り、睡眠時間を確保して、身体を休ませましょう。

抗がん剤以外が原因で症状がおきることがあります。**症状が長続きするときにはご相談ください。**



発疹

症状: 皮膚が赤くなったり、かゆみや水ぶくれのような症状が出ることがあります。

対策: ひどく続くようであれば軟膏などで対応することが可能です。



口内炎

口の中の粘膜が抗がん剤によって直接障害されてできる場合と、抵抗力の低下に伴う口腔内細菌の増殖によっておこる場合があります。症状は口腔内の違和感(舌で触るとザラザラする、など)、疼痛、出血、冷温水痛、発赤・腫脹、などです。**出来やすい場所は下唇の裏側、頬の内側、舌の側面などです。**

好発時期: 抗がん剤投与後、数日~14日目くらいに発症しやすくなります。

対策: 次のような状態は口内炎が発症しやすくなります。

1. 口腔衛生状態の不良

虫歯、歯周病、舌苔が多い、義歯が合っていない、歯磨きやうがいができない(できていない)、など

2. 免疫能の低下

高齢者、ステロイドの使用、糖尿病、抗がん剤治療、など

3. 栄養状態の不良

4. 口腔付近の放射線治療

5. 喫煙

口腔内血流の低下、白血球・マクロファージの機能低下、歯石の形成などが原因と考えられる。

口内炎には予防が重要です！口の中を清潔に保ってください。

1. 食後の歯磨き

歯ブラシは柔らかいものを使用して不用意に傷を作らないように心がけてください。

2. うがい

歯磨き以外でも口の中が不快な場合（乾燥、違和感、口臭、など）はその都度行うことがよいでしょう。

生理食塩液や水でうがいしていただいても十分効果がありますが、マウスウォッシュを使用する場合は低刺激性のものを選択してください。

生理食塩液

食塩：4.5g ⇒ **小さじ(5cc)で約1杯**

水を加えて500ml 起きている間2～3時間毎にうがい

3. 禁煙

口内炎が出来てしまったら、刺激物や熱いものは避けてください。

水分は刺激を与えないよう、ストローを使うとよいでしょう。

必要に応じてお薬を処方しますので口内炎が出来てしまったらご相談ください。

水疱や、白苔ができた場合は早めにご連絡ください。

アレルギー

好発時期：点滴中または点滴後の比較的早い時点で現れることがあります。

自覚症状は、息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、発疹がでる、汗がでる、などです。

対策：異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

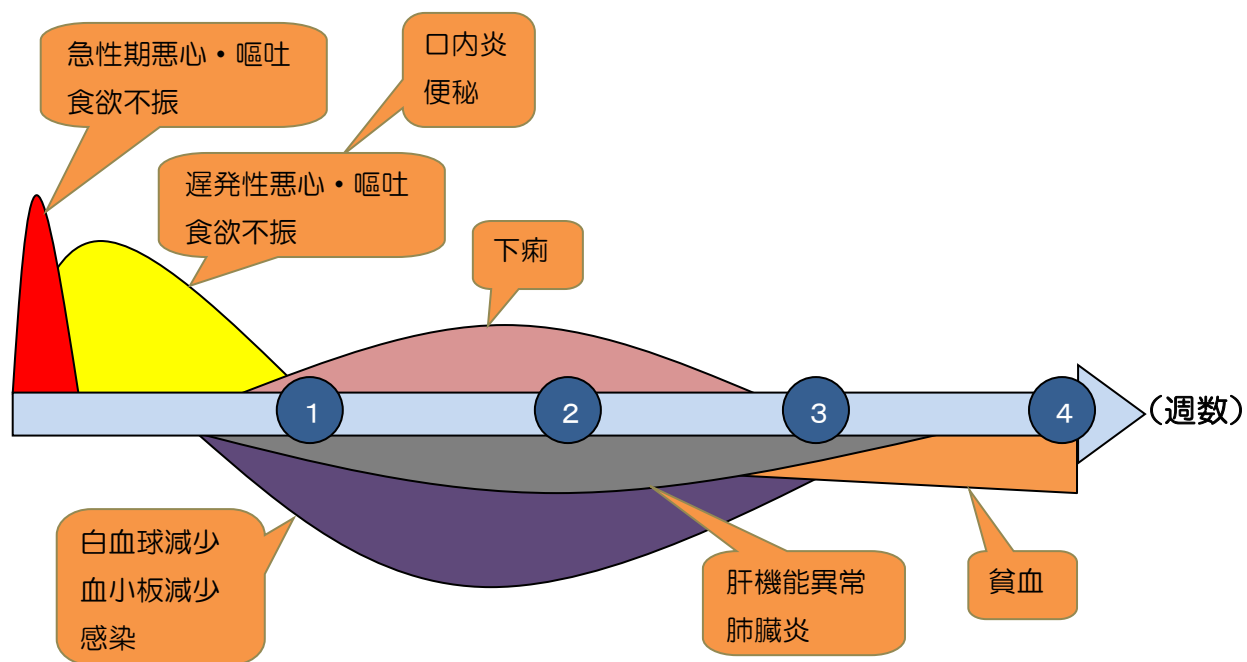
血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまう（漏出）ことがまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れなどで、場合によっては血管に沿って症状が出てくることもあります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

好発時期：点滴している間がほとんどですが、帰宅後にもし異常を感じたら早めにご連絡ください。

対策：抗がん剤の種類によって対策が異なります。基本的には患部を温めたり、軟膏や注射による治療を行います。

副作用発現時期 (イメージ)



※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院
代表:TEL 028-626-5500